

8/10
8/14
⑤ Int.CI. ⑦ 日本分類
C 09 b 23 D 3
JAPAN 223 48 B 15
GROUP 48 B 202
CLASS 5
RECORDED 8

日本国特許庁

①特許出願公告

昭47-26653

⑩ 特許公報

④公告 昭和47年(1972)7月18日

発明の数 1

(全4頁)

472007-E
JA-014592-T30.
Nippon Kagaku Kogyo-Sho KK.

E21.

NIKA.28-02-69.

• JA-7226653-R,

C09b (18-07-72)...
AZOIC DYEING COMPSN - AVOIDS WASTAGE FROM
DUST FORMATION...

NEW

A stabilised compsn contg a mixture for azoic dyeing, organic amine, solvent and an alkali and which does not scatter.

DETAILS

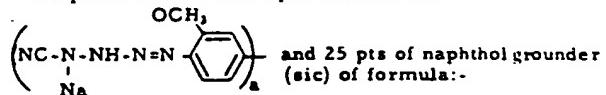
Organic amines are preferably water soluble and may be triethanolamine, triisopropanolamine, ethyldiethanolamine, dibutanolamine, diethanolamine, isopropanolamine, ethylene diamine, diethylenetriamine, pyridine, and piperazine. Organic solvents may be the above organic amines, varied alcohols, polyhydric alcohols or their ethers, esters, amides, lactones, various amides such as DMF and organic S-contng compounds such as DMSO, thioglycols, and also dioxane and THF.

E7-D4, E7-D11, E10-B1B, E10-B3B, E10-D3,
E21-E, E26.

65

EXAMPLE

25 pts of diazo amino cpds of formula:-



were kneaded well with 60 pts
(a is undefined)
of 10% aq. NaOH, 10 pts triisopropanolamine, 15 pts Emulgen 910, 150 pts ethyl cellosolve and 100 pts diethylene glycol and warmed slightly to give a pale yellow homogeneous soln. The soln stood for 1 month for 0-5°C and showed no precipitation or discoloration.

472007

本発明は、アゾイック染料の飛散防止剤として、その内容は水溶性ジアゾアミノ化合物とナフトール下漬剤との混合組成物である。この種の染料は他の一般染料に比べて安定性に欠けるが、特にこのものの含水状態ないし水溶液状態では容易に染料の分解、発色、変質等をおこして到底保存に耐えないのみならず使用の面でも重要な制限をうける。染料組成中のジアゾアミノ化合物の粉末は飛散性に富みかつこのものが人体によると粘まく、ひふ、肝そう等に悪質な影響をおよぼすものであることは既に公知の事実である。従つて当然のことながらかかる染料の製造又は使用の面では染料ないし粉末状染料の性質から誘因される種々な欠点ないし障害を防止する工夫がおこなわれているのが実情である。即ち例ええば染料粉末に飛散防止剤を添加したり又は有毒視されるジアゾアミノ化合物だけをペースト状として供給し、使用に際してナフトール下漬剤と混ぜて水溶液の形とする方法等がとられている。ところが何れの方法でも染料の完全な飛散防止が期待できずかつ溶解する場合、それに糊材等を加えて色糊とする場合、或いは色糊の印花作業中にわたつて操作のはん縫に加うるに染料濃度の正確性と安定性

末性であるために粉末に基づく粉じんが全くないことが特徴である。さらに詳しく本発明方法を説明すれば、本発明方法の染料組成物の組成内容は、従来の如き混合アゾイック染料に苛性アルカリの存在で有機アミンの一種又は二種以上加え、かつこれらを均一化しうる溶剤の一種又は二種以上からなることを特徴とするものである。

本発明に使用するジアゾアミノ化合物は一般に分子中に $-N-N-N-$ 基をもつ化合物であつて通常芳香族第一級アミン類（一般にナフトールペース類と称す）のジアゾ化合物と脂肪族、芳香族等の第一又は第二級アミン類（一般に安定剤と称す）とのカップリング反応によつて製造できる。かかるジアゾアミノ化合物は一般に熱、光、湿気等に対し不安定であり容易に分解する。本発明者はかかる不安定なジアゾアミノ化合物の安定化には有機アミン類を含む溶剤組成物が卓越した効果を示すことを発見した。

本発明方法としての染料組成物を構成する有機アミン類は一般に水溶性であることが望ましく脂肪、芳香、複素環、脂環類を問はず、かつアミノ基としてはその級を問はずさらに置換又は導入



(2,000)

特許出願

46 3.24

1. 発明の名称 フラスクヒテン ケンブ ナンケンホウシ

複数被点検部の点検方式

2. 発明者 神戸市兵庫区和田崎町3丁目10番地の1

佐野 三菱電機株式会社神戸製作所内

氏名 エビヤマ トシノブ
萬老坂 敏信3. 特許出願人
住所 東京都千代田区丸の内二丁目2番3号
(601) 三菱電機株式会社

代表者 大六

4. 代理人 遠藤貞介
住所 東京都千代田区丸の内二丁目2番3号
(6046) 三菱電機株式会社内
(通話先 東京(212)6933 特許部)

5. 送付書類の目録

- (1) 明細書 1通
- (2) 図面 1通
- (3) 要件状 1通
- (4) 出願料金納付書 1通

明細書

1. 発明の名称

複数被点検部の点検方式

2. 特許請求の範囲

複数個の被点検部にそれぞれ接続されかつ前記被点検部が正常の時のみ出力を発生する点検部と、前記各点検部の出力を入力としつつ計数表示を行なう制御部と、前記制御部の出力に対応して前記各点検部を選択して電力を供給する電源部とを備え、前記被点検部が正常の時のみ点検部から送出される出力によつて前記制御部を計数表示させるとともに前記電源部を制御して前記各点検部に順次電力を供給するようにしたことを特徴とする複数被点検部の点検方式。

3. 発明の詳細を説明

本発明は複数個の被点検部、例えば複数個の保護继電装置等を点検する点検方式に関する。

従来一般に用いられていた複数点検部の点検装置は、第1図に示すように複数個の被点検部(1a)～(1n)にそれぞれ点検信号を供給

(1)

②特願昭46-17106 ⑪特開昭47-26653

⑬公開昭47.(1972)10.25 (全3頁)

審査請求 有

⑯日本国特許庁

⑭公開特許公報

府内整理番号

6733 52
6260 24
6360 24

⑮日本分類

58 E0
105 B0
110 C0

し、被点検部(1a)～(1n)が正常の時のみ信号を受ける複数個の点検部(2a)～(2n)と、前記点検部(2a)～(2n)にそれぞれ電力を共通に供給する電源部(3)とから構成されている。そして電源部(3)の入力端子(4)、(5)間に電圧を供給すると、電源部(3)は例えば5Vの出力電圧を前記点検部(2a)～(2n)にそれぞれ供給する。次に論理回路等で構成されている前記点検部(2a)の入力端子(6)にスタート信号を供給すると、点検部(2a)は点検信号を被点検部(1a)に供給する。この場合、被点検部(1a)は点検部(2a)よりの点検信号を受けると、正常時のみ信号を点検部(2a)に帰すようになつている。この結果被点検部(1a)よりの信号を受けた点検部(2a)は出力を発生し、この出力は次の点検部(2b)にスタート信号として供給される。このようにして被点検部(1a)～(1n)の点検を順次行ない、全被点検部(1a)～(1n)が正常の場合には、最終点検

(2)

部(2a)の出力端(7)に出力を発生する。なお、途中の被点検部が異常の場合には、その被点検部に対応する点検部は次の点検部にスタート信号を供給しないために点検シフト動作が停止し、異常であることを表示する。

しかしながら上述した構成では、複数個の被点検部にそれぞれ接続された点検部が点検動作中常に電源部に接続されているために、被点検部の数に対応して電源部の消費電力が多くなり、送電所等のように直流電源を蓄電器に頼つているところでは容量不足が大きな問題となる等々の欠点を有している。

第2図は本発明による複数被点検部の点検方式の一実施例を示す回路図であり、同図において(8a)～(8d)は被点検部(1a)～(1d)に接続された点検部であり、この点検部(8a)～(8d)は電源が供給されると対応する被点検部(1a)～(1d)に点検信号を供給し、対応する被点検部(1a)～(1d)上が正常の時のみ出力を発生する点検部、(9)

(3)

には最終被点検部(1d)を点検した後、前記制御部(9)の計数表示動作および電源部(10)の切替動作を停止する。なお被点検部(1a)～(1d)内に異常がある場合には、異常を有する被点検部からは出力が得られないために対応する点検部は出力を発生せず、制御部(9)は異常な被点検部に対応した計数を表示して停止する。

以上説明したように、本発明による複数被点検部の点検方式は、被点検部にそれぞれ接続された点検部に順次電源を供給しながら点検を行なう方式であるために、電源部は1端の最大消費電力を最大出力とするものでよく、電源部は従来に比較して極めて小型でよく、また消費電力も著しく減少する等々の効果を有する。

4. 図面の簡単な説明

第1図は従来の点検方式を説明するための回路図、第2図は本発明による複数被点検部の点検方式の一実施例を示す回路図である。図中同一符号は同一または同等部分を示す。(1a)

特開昭47-26653 (2)
は前記点検部(8a)～(8d)の出力を入力としつつ入力信号を計数表示する制御部、(10)は前記制御部(9)の出力に従つて前記点検部(8a)～(8d)に電力を供給する電源部である。

以下このように構成された回路の動作を説明する。まず始めに電源部(10)の入力端(11)、(12)間に電圧を供給すると、点検部(8a)のみに電圧が供給され、点検部(8a)は被点検部(1a)に点検信号を供給する。この場合、前記被点検部(1a)は正常時のみ出力を発生し、その出力は前記点検部(8a)に供給される。この結果点検部(8a)は前記被点検部(1a)よりの信号を受けて出力を発生し、この出力を制御部(9)に供給する。制御部(9)は点検部(8a)の出力を計数表示するとともに電源部(10)を制御し、次の点検部(8b)のみに電力を供給する。このようにして被点検部(1a)～(1d)を順次点検し、全被点検部(1a)～(1d)が正常の場合

(4)

～(1d)。。被点検部、(2a)～(2d)。。。点検部、(3)。。。電源部、(4)。。。スタート入力端子、(7)。。。出力端子、(8a)～(8d)。。。点検部、(9)。。。制御部、(10)。。。電源部

特許出願人 代 理 人
弁理士 兼木正

(5)

(6)

図1

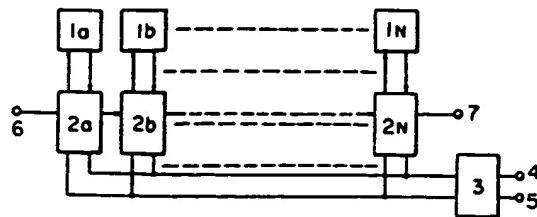
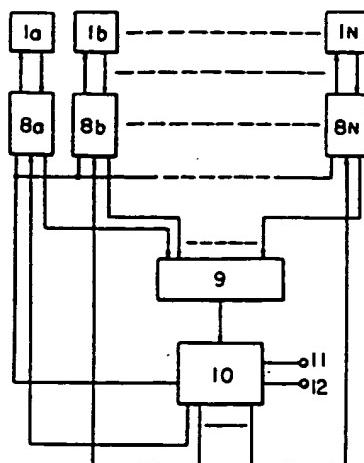


図2



特許出願人代理人弁理士 鈴木正治

75384 C/43	B05	SHER-07.02.77 *CA 1086-719	B15-B1G, 10-A98, 12-K4, 12-M6). 4	15
SHERWOOD MEDICAL 07.02.77-US-765961 (30.09.80) C07c-143/38 Stabilised solns. of diazotised sulphanilic acid - for determin. of bilirubin, contg. phosphonic and sulphonic acid stabilisers				
USES/ADVANTAGES Solns. contg. diazotised sulphanilic acid are stabilised by adding nitrilotri-(methylene)triphosphonic acid (NTMP) and 1,3,6-naphthalene-trisulphonic acid (NTS).				CA 1086719